

## 平成25年度 第44回千葉県中学校バスケットボール新人大会 総評

千葉県小中学校体育連盟主催、千葉日報社他後援の第44回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は11月4日（月）、9日（土）、10日（日）の3日間、大網白里アリーナをメイン会場とした3会場で行われた。

男子のベスト4には、シードから順調に勝ち上がった前原中（船橋）、高津中（八千代）、君津中（君津）に加え、ノーシードながら高さとしつと力強さを秘めた和田中（安房）が出そろい、準決勝は前原中対高津中と、和田中対君津中の対戦カードとなった。スピードあふれる速攻と1対1の強さが光る前原中と、ミドルシュート、3ポイント、カットインなど多彩な攻撃が持ち味の君津中が決勝に進んだ。

決勝戦は両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。前原中は⑦保泉、君津中は⑤鵜田の両エースの1 on 1を中心に試合が展開する。前原中⑦保泉はインサイドを中心に得点を重ねたのに対し、君津中⑤鵜田はジャンプシュートなどで得点していく。前原中が12点のリードで迎えた後半、君津中は④能登のバスケットカウントなどで得点を重ね、その差を4点まで詰めて前原中に迫る。対する前原中も、追従を許すまいと果敢に攻撃を仕掛け、前原中⑧松岡がゴール下のシュートを力強く沈める。第4Q、前原中⑦保泉が3本連続でジャンプシュートを成功させる。君津中も粘り強くディフェンスし食い下がる。最後は前原中がしっかりコントロールして試合終了。前原中が28年ぶり2回目の新人戦優勝に輝いた。

一方女子のベスト4は、シードから順調に勝ち上がった昭和学院中（市川・浦安）、鎌ヶ谷五中（葛南）、海神中（船橋）に、昨年度に続きシード校を破って勝ち上がった八木が谷中（船橋）を加えた顔ぶれ。準決勝は昭和学院中対八木が谷中と、鎌ヶ谷五中対海神中の対戦カードとなった。決勝には、県新人戦7連覇を狙う昭和学院中と、力強いインサイドプレイと激しく攻撃的なディフェンスで勝利してきた鎌ヶ谷五中が進出した。

決勝戦は、昭和学院中が序盤から1-2-1-1のゾーンプレスを仕掛けて、勝負に出る。対する鎌ヶ谷五中はハーフマンツーマンながら厳しいプレッシャーで、昭和学院中にペースをつかませない作戦。落ち着いたシュートなどで昭和学院中がリードするも、鎌ヶ谷五中は④高橋、⑥山下が3ポイントを連続で沈め同点に追いつき試合を振り出しに戻す。後半に入ると、両チームとも一歩も譲らない一進一退の攻防が続き、第3Qだけのスコアでみると12-12の同点。そのまま試合は最終クォーターへ。昭和学院中はディフェンスでもよく足を動かし、相手の動きを上手く予想して動き、鎌ヶ谷五中の追従を許さない。最後はそのまま昭和学院中が逃げ切り、7年連続17回目の優勝を決めた。敗れはしたものの、鎌ヶ谷五中の最後まであきらめず粘り強くディフェンス、リバウンドを頑張る姿勢が印象的であった。両チームの健闘に拍手を送りたい。

今年度の新人大会では、昨年度から下級生ながら試合に出場していた選手の成長はもちろん、最後まであきらめずにボールを追いかけ、ディフェンスやリバウンドなど目立たないところでもひたむきに頑張るチームの活躍が見られる大会であった。中学生らしく一生懸命にプレーする姿は、見る人を魅了するものであった。春の選手権までの約6ヶ月の間に、選手達がどれだけ成長中するのかが、とても楽しみである。

最後になりましたが、TO指導や会場準備など、開催地区である山武支部の役員の先生方、生徒の皆様、支部外からお手伝いいただいた先生方、バスケットボール関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。心よりご協力に対し感謝いたします。

文責 県中体連バスケットボール専門部  
報道委員会 中村 圭吾（富里中）